

# F/T12

FESTIVAL/TOKYO



**DAH-DAH-SKO-DAH-DAH /**

**演出・振付・美術・照明：勅使川原三郎**

**DAH-DAH-SKO-DAH-DAH /**

**Direction, Choreography, Stage Design, Lighting: Saburo Teshigawara**

**11/23 (Fri) - 11/25 (Sun)**

東京芸術劇場 プレイハウス

Tokyo Metropolitan Theatre, Playhouse



**2020年オリンピック・  
パラリンピックを日本で!**

© Shunki Ogawa



# DAH-DAH-SKO-DAH-DAH

## 「宮澤賢治の方を向きながら」

勅使川原三郎

霜が降りた地面の中から頭  
粘り気に戯れる坊主少年  
カラカラ風が立ち上がる  
空気上昇星に届き飛び散り  
乾燥大気割れる北風に消え  
虫踊り跳躍ばい菌這いずる  
擬音溢れる森羅万象が飛ぶ  
謎なぞ解けず距離が燃える  
音音音音音音音音音音音  
リズム泣け黙れ聴け触れる  
見ろ身体でよく見るリズム  
切れ切れ身を切れ逃げるな  
飛ぶぞ落ちるぞギッタギタ  
星目宮指沢背賢脚治腹地  
夜空に埋もれたこどもたち  
風に煽られ現れて朝に遊ぶ

ぼくは今、自分の中に様々な過去の自分が同時に生きているのをあらためて感じる。ぼくは毎日膨らんだり縮んだり伸びたり縮こまったりしつつ、もとに戻って歩きをつづける。ぼくのサイズが変わるわけではない。ぼくが行う変化はぼくを鍛える。予期しない変化と目指す形への眼差しによってぼくは常にバランスをぎりぎり限界で保っている。この馬鹿な世の中に自分の動く流体形や無限に吹き出す思考を合せる事などできるわけがない。身体と自分との距離をきちんと測量しておかなければ馬鹿な世間に惑わされ騙される。しまいには騙す側にまわる。ダンスというのが、ずいぶんいい加減な距離感をもって蒸し返したり誤魔化したり気取り屋の逃げ場所になっているのを随分見た。そんなものこそ叩きつづせと賢治が叫んだ。もちろん賢治がダンスの事を詩にしたわけではない。ぼくは賢治の複数域に点在する、ある挑戦的態度に共感する。あるがままで良しとする態度にとどまらない、その精神と事の関わり方、現実を我が身に近づけて、いや我が身をあらゆる対象にさらし、近づいてものを知り先に進む。実験精神。理想を求める挑戦的精神にひかれる。

『DAH-DAH-SKO-DAH-DAH』はかなり以前に創作したが、その中に生きつづけているものを生き返らせ、新たな生命を作品に与えたかった。創作時に共有していた、とてつもなく強烈な意欲、無限大の想像力。全身を空気や音楽や言葉に打ちつけて踊った精神は受け継がれている。この公演の機会に感謝し、我々は新たな気流をつくる。そのものがダンスである事を示す。

ギャブロ  
雪と飛白岩の峯の脚  
宮澤賢治

雪と飛白岩の峯の脚  
二十日の月の錫のあかりに  
激んで赤い落水管と  
ガラスづくりの発電室と  
……また余水吐の青じろい滝……  
黴い蝸牛水車で  
早くも春の雷気を鳴らし  
ダイナモコレスオプテラ  
鞘翅発電機をもって  
愴たる夜中の睡気を顫はせ  
大トランスの六つから  
三万ボルトのけいれんを  
野原の方へ送りつけ  
むら気多情の計器どもを  
ぼかぼか監視してますと  
いつか巨大な配電盤は  
交通地図の模型と変じ  
小さな汽車もかけ出して  
海よりねむい耳もに  
やさしい声はひつてくる  
おゝ恋人の全身は  
玲瓏とした氷でできて  
谷の水柱を靴にはき  
淵の薄水をマントに着れば  
胸にはひかるポタシュバルヴの心臓が  
耿々としてうごいてゐる  
やっぱりあなたは心臓を  
三つも持ってゐたんですねと  
技手がかなしくかこつて云へば  
佳人はりうと胸を張る  
どうして三つか四つもなくて  
脚本一つ書けませう  
技手は思はず慣る  
なにがいったい脚本です  
あなたのむら気な教養と  
愚にもつかない虚名のために  
そこの野原のこどもらが  
小さな赤いもゝひきや  
足袋ももたずにゐるのです

旧年末に家長らが  
魚や菓の市へ来て  
溜息しながら夕方まで  
行ったり来たりするので  
さういふ犠牲に値する  
巨匠はいったい何者ですか  
さういふ犠牲に対立し得る  
作品こそはどれなのですか  
もし芸術といふものが  
蒸し返したりごまかしたり  
いつまでたってもいつまで経っても  
やくざ卑怯の逃げ場所なら  
そんなものこそ叩きつづけ  
云ひ過ぎたなと思ったときは  
フロイトイン  
令嬢の全身は  
いささかピサの斜塔のかたち  
どうやらこれは重心が  
脚より前へ出て来るやう  
ねえご返事をききませう  
なぜはなやかな機智でなり  
突き刺すやうな冷笑なりで  
びんと弾いて来ないんです  
おゝ傾角の増大は  
tの自乗に比例する  
ぼくのいまがた云つたのは  
ひるま雑誌で読んだんです  
しっかりなさいと叫んだときは  
ひとはあをあを昏倒して  
ちゃらんばちゃんど壊れてしまふ  
愴惶として眼をあけば  
コンクリートのつめたい床で  
工手は落した油缶をひろひ  
窓のそとでは雪やさびしい蛇紋岩の峯の下  
まっくろなフェロシリコンの工場から  
赤い傘火花の雲が舞ひあがり、  
一列の清冽な電燈は、  
たゞ青じろい二十日の月の、  
盗賊紳士風した風のなかです。

## 小さな身体から無限の宇宙へ

宮澤賢治の鼓動を、勅使川原三郎が伝える！

桂 真菜 (舞踊・演劇評論家)

大きな可能性を秘めた、自分の身体——。

その価値に、勅使川原三郎のダンスは気づかせてくれる。比類ないスピードで彼は空気を切れ、観客を常識の網から解き放つ。腕はどこまで速く回る？ 皮膚で色を感じとれる？ 素朴な疑問が湧く瞬間、抑圧され青ざめていた潜在意識に血が通いだす。ダンスの刺激が、人間の60兆近い細胞に新陳代謝を促すのだろうか。

勅使川原の公演からの帰途は、携帯電話をかける指や、石段を踏む足感覚が冴える。視界と聴覚が拡がったような解放感が心身を弾ませる。

スタイルを変えながら未知の領域を進む求道者は、冒険を恐れない。80年代の活動開始直後から実験的な表現に取り組んでは、人々の感受性を拓き、幅広い分野に影響を与えてきた。照明、美術も自ら手がけるステージは、オブジェの質感と量の均衡が絶妙だ。身体で触れる行為を大切にしながら、勅使川原は映像や先端テクノロジーにも情熱を注ぐ。近年は海外のミュージアムで3D映像のインスタレーションを発表し、仮想世界における身体感覚を問いかけた。勇敢な挑戦を続けた成果として、作品には多方向から思考を耕す叡智が光る。

意表を突く試みが結晶した代表作のひとつが、宮澤賢治の心象スケッチ(mental sketch modified)「原体剣舞連」(「春と修羅 第一集」)をモチーフに創った『DAH-DAH-SKO-DAH-DAH』。91年の東京グローブ座における公演に招いたメンバーには驚かされた。

ダンス・グループKARAS、クラシックバレエ・ダンサー、そして岩手県江刺で「原体剣舞」を継承する少年！ 大胆な組み合わせではないか。

同作は高さ24メートルの球体劇場(湘南台文化センター市民シアター)で初演(91)、その後、国内外で上演を重ねた(少年が舞ったのは、グローブ座公演のみ)。会場が移るたび、器に即応する柔軟性も勅使川原作品の特長だ。

江戸末期より北上山地で守られる剣舞は、死者の鎮魂を祈る民俗芸能。大正時代に賢治を惹きつけた剣舞に、半世紀以上を経て江刺を訪れた勅使川原も魅せられ、ひとりの少年に『DAH-DAH-SKO-DAH-DAH』出演を依頼したのだ。

グローブ座で力強く故郷の伝統を披露した12歳の少年を通し、賢治の言葉が蘇った。「原体剣舞連」の冒頭を引用しよう\*。

dah-dah-dah-dah-dah-sko-dah-dah

こんや異装いそうのげん月のした

鶏とりの黒尾を頭巾ずきんにかざり

片刃かたはの太刀たちをひらめかす

原体村おどりこの舞手たちよ

鶴ときいろのはるの樹液じゆえきを

アルペン農しんきんの辛酸しんきんに投げ

生せいしののめの草せいいろの火を

高原たかの風とひかりにさいげ

菩提ま樹皮だと縄かわとをまなとふ

気圏きの戦士けんわが朋ともたちよ

(「宮澤賢治全集1」ちくま文庫より)

雄鶏の羽を戴いて舞う少年のりりしい面影は、今も鮮やか。唇を一字に結び、跳んで身を翻す舞手の太刀は邪気を払う。打ち鳴らされる太鼓のリズムはダー・ダー・スコ・ダー・ダー……。賢

賢治は舞手を「気圏の戦士」と呼び、橘、檸檬、ひのきに例える。空に伸びる樹木に似た稚児の清らかな香りが、周囲を浄化した。

ちなみに、「原体剣舞連」には幾種類もの生物が登場するが、賢治作品ではKARAS(カラス=鳥)も活躍。童話「鳥の北斗七星」、文語詩「鳥百態」の描写には、作者の理想が投影される。

いっぽう『DAH-DAH-SKO-DAH-DAH』の幕開けのライブには、少年の剣舞とは対照的なノイズがあふれた。梅津和時のサクソとKARASのダンサーでもあった伊藤俊のピアノが奏でた曲は、ストラヴィンスキー作曲「春の祭典」。木管と弦楽器のせめぎ合いに、勅使川原がソロでぶつかり火花散らす音を体現。やがて、思いがけない場面が展開した。

背の高い椅子にジャケットを着た山猫(の頭部を被ったダンサー)と並んで座った勅使川原が、「春と修羅」補遺に収録された詩「雪と飛白石ギャプロの峯の脚」を朗読したのである。

賢治の怒りに共鳴する勅使川原の声に、「原体剣舞連」に記された悪路王あくろおう(大和朝廷に服従せず討たれた蝦夷の英雄)の反骨がよぎる。

オレンジの灯に照らされた巨大な山猫は「注文の多い料理店」「どんぐりと山猫」など、人と獣が出会う童話を想わせる。「蠕虫舞手(アンネリダ・タンツェーリン)」「春と修羅 第一集」で、水に蠢くボウフラをダンサーに見立てた賢治は動植物も鉱物も人類も等価と信じ、銀河の彼方を望みつつ、地上の悲しみに寄り添った。宇宙と対話する壮大な世界観をはらむ「原体剣舞連」に、賢治が記した擬音『DAH-DAH-SKO-DAH-DAH』は、眠る間も体内では心臓が鼓動を打って血を巡らす、と再認識させる。

山猫が去ると、舞台は次第に荒ぶる魂を帯びる。倒れては起き上がり、床を踏み鳴らすダンサーたちは輝いていた。圧倒されながら「身体の可能性を知りたい」という思いをつのらせた。

記憶に焼きついた『DAH-DAH-SKO-DAH-DAH』公演から21年が経つ。グローブ座で舞った少年も、すっかり大人になったはず。ありし日の賢治は原稿に手を入れ続けたが、2012年秋、勅使川原は賢治の詩に導かれた作品を改める。歳月が流れるなか、KARASには二十代前半のダンサーが増えた。そして、演出・振付助手を務めるソリスト、佐東利穂子は国境を超えて注目を集めている。

この夏、イタリアのレオニード・マシーン賞を受賞した佐東は、柔らかに羽ばたく、と思えば、鉄棒と化し、錆びて砕け散る……。微速度撮影ながらの変貌は、畏れを抱かせる。勅使川原は光、音、気体、液体、物質を粒子と捉え、それらが反応し合う磁場に立つ。自在な動きで空気と戯れ、重力をコントロールするふたりは、肺のみならず全身の毛孔で呼吸しているかのよう。

以前の上演とは構成も変わる『DAH-DAH-SKO-DAH-DAH』、新しい発見に期待が高まる。時空間と身体の関係を一層と深化させた勅使川原三郎は、読む者をあたたかく励ます宮澤賢治の詩を観客にどう渡すのだろう。そして、フレッシュなKARASのダンサーたちが刻む『DAH-DAH-SKO-DAH-DAH』のリズムは、何をイメージさせるだろうか。

\*引用部分の漢字ふりがなは、現代語にあらためました。



勅使川原三郎  
Saburo Teshigawara

1981年より独自の創作活動を開始。85年以降、自身のカンパニー KARAS と共に世界中で公演を行ない、既存のダンスの枠組みでは捉えきれない新しい表現を追求している。呼吸を基礎にした独自のダンスメソッドと、光・音・空気・身体によって空間を質的に変化させ創造するかつてない独創的な作品は、ダンス界にとどまらず、あらゆるアートシーンに衝撃を与え、造形作家、映像作家としての評価も高い。パリ・オペラ座バレエ団、フランクフルトバレエ団、ネザーランド・ダンス・シアター I 他への振付作品、フェニーチェ歌劇場、エクサンプロヴァンス・フェスティバル 他のおペラ演出作品等もある。また、ダンス教育に関しても独自の理念を持ち、KARAS 創設以前より常に継続してワークショップを行ない、現在に至るまで国内外の若手ダンサー育成に力を注ぐ。2006年度からは立教大学現代心理学部映像身体学科の教授に就任し、教育現場における新世代との創造活動にも意欲的に取り組んでいる。

He began his unique creative career in 1981. After forming KARAS in 1985 he sought to find new kinds of artistic expression that cannot be confined to the existing framework of dance. He is active and recognized worldwide. Due to his creative approach to transforming a space through light, sound, air and the body, his influence has been felt not only in the dance world but also on the art scene. Recently he has been directing opera to great acclaim. He has taught at Rikkyo University's College of Contemporary Psychology (Body Expression and Cinematic Arts course) since 2006.



佐東利穂子  
Rihoko Sato

1996年より勅使川原三郎振付の全ての作品に出演。振付/演出助手も務め、「AIR」(パリ・オペラ座バレエ団)等でもダンスミストレスの役割を担う。刃物のような鋭利さから、空気に溶け入るような感覚まで、質感を自在に変化させる佐東のダンスは国際的に高く評価され、2006年「Ballet2000」年間最優秀ダンサー賞、今年のレオニード・マシーン賞の最優秀女性ダンサー賞を受賞し、世界で屈指のダンサーとして認められている。

Has appeared in all of Saburo Teshigawara's choreographed works since 1996. Alongside choreography and assistant direction, she is also a ballet mistress, including for "AIR" (Paris Opera House Ballet). She is acclaimed internationally for her blade-like incisiveness and sensibility that seems to melt into the air. She received the Best Dancer Ballet2000 Award in 2006, as well as Best Female Dancer for this year's Léonide Massine Prize.



ジエフ  
Jieff

1995年からKARASワークショップに参加。1996年以降、KARASメンバーとして「GREEN(Raj Packet 改作)」「Scream and Whisper」他に出演。その独特のキャラクターがもつ存在感は、高く評価されている。勅使川原演出のおペラ「Turandot」では特異なキャラクターをいかして首切り役人を好演した。

Participated in KARAS workshops from 1995 and has appeared in KARAS dance work from 1996, including "GREEN" (later "Raj Packet") and "Scream and Whisper". Acclaimed for his unique presence and for such major appearances as in Teshigawara's staging of the opera "Turandot".



鵜川枝里 Eri Wanikawa

2008年に勅使川原が創作した「空気のダンス」公演プロジェクトに参加、以降、勅使川原のもとで目覚ましい成長を続ける。勅使川原三郎のダンスメソッドを学び、2009年からKARASの公演に参加。海外でもグループ作品に出演し観客を魅了している。他に勅使川原演出によるフェニーチェ歌劇場おペラ「ダイドとエネアス」にも出演。

Following their participation in Teshigawara's "Dance of Air" project in 2008, they have continued their strong development under the choreographer, studying his methodology and appearing in his productions from 2009. They have beguiled overseas audiences with their contributions to group performances. They also appeared in "Dido and Aeneas" directed by Teshigawara at La Fenice.



山本奈々 Nana Yamamoto



加見理一 Riichi Kami

#### 林誠太郎 Seitaro Hayashi, 加藤梨花 Rika Kato

勅使川原が教授を務める立教大学現代心理学部映像身体学科で、勅使川原のダンスメソッドを学ぶ。卒業後、KARASの活動に参加。Former students of Teshigawara's Body Expression and Cinematic Arts course at Rikkyo University's College of Contemporary Psychology. They have been participating in KARAS productions since graduation.

演出・振付・美術・照明：勅使川原 三郎

出演：勅使川原 三郎、佐東利穂子、ジイフ  
鶴川枝里、加見理一、山本奈々、林誠太郎、加藤梨花

スタッフ

照明技術：清水裕樹（ハロ）  
音響技術：三森啓弘（サウンドマン）  
舞台監督：マークス・ポトゥ  
技術協力：寛川英司＋鴉屋  
舞台監督助手：渡部景介  
演出部：十万亜紀子

記録写真：石川 純  
記録映像：（株）彩高堂「西池袋映像」

F/Tスタッフ

制作統括：武田知也、小島寛大  
制作：戸田史子  
フロント運営：小野塚央  
プログラム・ディレクター：相馬千秋

F/Tクルー：内海ちさき、大賀啓子、鹿子木直美、加藤真帆、小堺寛子、  
松嶋瑠奈、米谷今日子

製作：KARAS  
助成：芸術文化振興基金  
主催：フェスティバル/トーキョー、KARAS



芸術文化振興基金

Direction, Choreography, Stage Design, Lighting Design:  
Saburo Teshigawara

Cast: Saburo Teshigawara, Rihoko Sato, JeeF  
EriWanikawa, Riichi Kami, Nana Yamamoto, Seitaro Hayashi, Rika Kato

Crew

Lighting Manager: Hiroki Shimizu (HALO)  
Sound Manager: Yoshihiro Mitsumori (Soundman)  
Production Manager: Markus Both  
Technical Co-ordination: Eiji Torakawa + Karasuya  
Assistant Stage Manager: Keisuke Watanabe  
Stage Assistant: Akiko Jyuman

Photography: Jun Ishikawa  
Video: Saikoudo Co., Ltd

Production Manager: Tomoya Takeda, Hirotomo Kojima  
Production Co-ordinator: Fumiko Toda  
Front of House: Chika Onozuka  
Program Director: Chiaki Soma

F/T Crew: Chisaki Utsumi, Keiko Oga, Naomi Kanakagi, Maho Kato, Hiroko  
Kozakai, Runa Matsushima, Kyoko Yonetani

Produced by KARAS  
Sponsored by Japan Arts Fund  
Presented by Festival/Tokyo, KARAS

勅使川原 三郎 / KARAS 今後の活動予定

2013年1月25日(金)・26日(土)	『ダンサーRの細胞』 東京芸術劇場
4～5月	音楽家とのコラボレーション 東京
5月～6月	『鏡と音楽』台湾 『SKINNERS』『オペセッション』他 ヨーロッパツアー
9月	勅使川原 三郎新作ソロ公演 東京
10月	パリ・オペラ座バレエ団への新作振付 『SKINNERS』『オペセッション』『SHE』他ヨーロッパツアー

メルマガ会員募集！

KARASではメルマガ会員にご登録いただいたみなさまに、いち早く勅使川原の公演情報、活動の近況、勅使川原からのメッセージをお届けしています。

ご登録はこちらから

<http://www.st-karas.com/mailmag.html>

## フェスティバル/トーキョー組織委員

### Festival/Tokyo Organization Committee

天牛大生	振付家、演出家
萩田伍	アサヒグループホールディングス株式会社代表取締役会長兼 CEO
扇田昭彦	演劇評論家
永井多恵子	社団法人国際演劇協会 (ITI/UNESCO) 日本センター会長
鶴川幸雄	演出家
野田秀樹	演出家
野村萬樹	狂言師
福原義春	株式会社資生堂 名誉会長 (五十台期)
Ushio Amagatsu Hiroyuki Ogita Akihiko Senda Takao Nagai Yuka Ninagawa Hidetoshi Noda Man Nomura Yoshihara Fukushima	Choreographer, Director Chairman and Representative Director, Chief Executive Officer, Asahi Group Holdings, Ltd. Theatre critic Chairman, Japanese Centre of International Theatre Institute (ITI/UNESCO) Director Director Kyogen actor Honorary Chairman, Shiseido Co., Ltd.

主催：フェスティバル/トーキョー実行委員会  
東京都、豊島区、  
東京文化発信プロジェクト室、東京芸術劇場、公益財団法人東京都歴史文化財団、  
公益財団法人としま未来文化財団、NPO法人アートネットワーク・ジャパン

Organized by Festival/Tokyo Executive Committee  
Tokyo Metropolitan Government, Toshima City, Tokyo Culture Creation Project & Tokyo Metropolitan Authority (The Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture), Toshima Future Culture Foundation, Arts Network Japan(NPO-JAN)

共催：社団法人国際演劇協会 (ITI/UNESCO) 日本センター

Produced in association with Japanese Centre of International Theatre Institute (ITI/UNESCO)

協賛：アサヒビール株式会社、株式会社資生堂

Sponsored by Asahi Breweries, Ltd., Shiseido Co., Ltd.

助成：公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団

Supported by Asahi Group Arts Foundation

後援：外務省、公益社団法人日本芸能実業家団体協議会

Endorsed by Ministry of Foreign Affairs, GEIDANKYO

特別協力：西武池袋本店、東武百貨店池袋店、サンシャインシティプリンスホテル、  
ホテルメトロポリタン、ホテルグランドシティ、チノコト株式会社、株式会社白水土社

Special co-operation from SEIBU IKEBUKUROHONTEN, TOKYO DEPARTMENT STORE IKEBUKURO, Sunshine City Prince Hotel,  
Hotel Metropolitan Tokyo, Hotel Grand City, Chacott Co., Ltd., Hakusuiya Publishing Co., Ltd.

協力：東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、  
豊島区観光協会、社団法人豊島産業協会、公益社団法人豊島法人会

In co-operation with The Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima,  
Toshima City Shopping Street Federation, Toshima City Federation, Toshima City Tourism Association,  
Toshima Industry Association, Toshima Corporation Association

宣伝協力：株式会社ポスターハリス、カブナビ、  
有限会社ネビュラエクストラサポート (公認/プログラム)

PR support: Poster Haris's Company, Nebula Extra Support Co., Ltd. (For FTJ Emerging Artists Program)

メディアパートナー：J-WAVE 81.3 FM、新潮、ARTIT、CINRA.NET

Media Partners: J-WAVE 81.3 FM, SHINCHO, ARTIT, CINRA.NET

認定：公益社団法人企業メネ協会の協賛

Approved by Association for Corporate Support of the Arts

平成24年度文化庁 地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

Supported by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan in the fiscal 2012

会期：平成24年(2012年)10月27日(土)～11月25日(日)



FTJクルー：会津麻美、青島美穂、安達彩、石引康子、一ノ瀬真志、若城幸志、止村康哉、宇都宮千晴、内海さき、遠藤乃判子、大泉尚子、大貫啓子、大島愛音、岡崎由子、緒方彩乃、岡本光代、岡本佳子、尾澤奈生、小野千尋、加藤真帆、鹿子不直美、金子椿高、川口 潤、木口七海、木下玉美、金せらみ、許智繪、桐谷佳実、黒沢友実、黒沢寛子、齊藤麗子、齋藤絵里佳、崎渡聖梨、畑満智美、佐藤喜子、霜島裕子、柴田知子、鈴木智香子、間島弥生、高橋悠花、田中希希、寺本奈津美、照田静香、陶 旭起、水杉彩子、中村真樹、中村みづみ、中山由紀、西岡行、能戸みな美、畑満富実、初村和実、花田雅美、早川幸菜、林原 菜、人見麻央、廣瀬加乃、福原麻梨子、福村 芽、藤原 樹、船川結菜、増尾 志、松嶋瑞菜、中村早絵、松本雄哉、丸山未來、三橋泰正、関 魁效、矢島樹、内藤智司、山田布紀、山室木園、山分町司、丹野亜希、吉田由実、米谷今日子、渡辺 夏

FTJ Crew: Mami Aizu, Miwa Ohshima, Aya Akachi, Yasuko Ishibiki, Takashi Ichinose, Taito Iwaki, Yasunasa Usugi, Chiaki Utsunomiya, Chiaki Utsumi, Noriko Ozono, Ozumi Naoko, Keiko Oga, Aika Omichi, Yuko Okazaki, Ayano Ogata, Mitsuyo Okamoto, Yoshiko Okamoto, Yoyo Otawo, Chihiro Ono, Maho Kato, Naomi Kaneko, Jey Kaneko, Akane Kawaguchi, Nanami Kiyochi, Tamami Kishida, Saeko Kim, Chiyo Kuro, Yoshimi Kiritani, Tomomi Kurokawa, Hiroko Kozaki, Naomichi Nakai, Erika Saito, Eri Sakihama, Yukiko Sato, Kyoko Sato, Mumeo Shimotani, Tomoko Shibata, Chikako Suzuki, Yayoi Sekijima, Yusuke Takahashi, Yuki Tanaka, Natsumi Teramoto, Shizuka Tokumura, Xuru Tota, Sayoko Nagai, Naoki Nakamura, Mimiaki Nakamura, Yuki Nakayama, Takayuki Nakasaki, Mirami Noto, Fumi Hatase, Kazumi Hatsumura, Masami Hanada, Haruna Hayakawa, Shiori Hayashibara, Mami Himoto, Kano Hirose, Mariko Kohzuka, Miki Furukawa, Kei Masakawa, Kei Masakawa, Rina Matsumiya, Sae Matsuda, Yoya Matsumoto, Mirai Maruyama, Yasunasa Mizuro, Iyemichi Min, Aya Tojima, Seiji Tanaka, Yuki Yamaguchi, Kizono Yamamura, Masashi Yamawaki, Aki Yumino, Yuki Yoshida, Kyoko Yonemitsu, Sara Yamashita

編集：鈴木理咲子、フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局  
発行：フェスティバル/トーキョー実行委員会  
アートディレクション+デザイン：佐藤直樹+中澤耕平 (ASYL)  
オペレーション：小村 剛  
印刷：アトミ株式会社  
発行日：2012年11月23日  
禁無断転載

## フェスティバル/トーキョー実行委員会

### Festival/Tokyo Executive Committee

名誉実行委員長	高野之夫	豊島区長
実行委員長	市村作知雄	NPO法人アートネットワーク・ジャパン 会長
副委員長	吉末昌弘	豊島区文化商工部長
委員	八巻規子	豊島区文化商工部文化デザイン課長
	大沼映雄	公益財団法人としま未来文化財団 常務理事/事務局長
	裕正人	公益財団法人としま未来文化財団 部長
	塩池奈緒子	NPO法人アートネットワーク・ジャパン 代表
	相馬千秋	NPO法人アートネットワーク・ジャパン プログラム・ディレクター
監事	天貝勝巳	豊島区総務部総務課長
法務アドバイザー	榎井健策	北海道弁護士(常置型法律事務所)

Honorary President of the Executive Committee: Yoko Takano, Mayor of Toshima City  
Chairman of the Executive Committee: Sachio Ichimura, Mayor of Toshima City  
Executive Committee Members: Masahiro Yoshino, Director of Culture, Commerce and Industry Division of Toshima City  
Committee Members: Noriko Yamaki, Culture, Commerce and Industry Division, Director of Cultural Design Section  
Hideo Onuma, Director of Secretariat of Toshima Future Culture Foundation  
Masato Kishi, Executive Manager of Toshima Future Culture Foundation  
Naoko Hasegawa, Arts Network Japan Representative  
Chiaki Sano, Arts Network Japan Program Director  
Supervisor: Katsumi Amagai, General Affairs Division, Director of General Affairs Section of Toshima City  
Legal Advisors: Kenzaki Fukui, Hisato Kitazawa (Kotou Dori Law Office)

## フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

### Executive Committee Office

プログラム・ディレクター	相馬千秋
事務局長	運池奈緒子
事務局長補佐	小島寛大
制作総括	武田知也
制作	河合千佳、喜友美麻江、小森あや、相山由香、 戸田史子、藤井さゆり

メディア戦略	松本花音
プログラム・リサーチ	クラウハイム・ウルリケ
アジア事業コーディネーター	小山ひとみ、李丞孝
票務管理	兵原理江、内戸 陽
チケットセンター	佐々木由希子、佐藤久美子
総務	葦原円花、一色真好
経理	堀久美子
小製作アシスタント	小野塚英、砂川史織、田中沙季、田野入涼子、中山亜以
メディア戦略補佐	冠根葉奈
アジア事業コーディネーター補佐	吉岡真衣子
インターン	伊藤芽依、小林弘樹、田端俊也、船橋史、吉崎香央里

技術監督	賀川英司
技術監督アシスタント	河野千秋
照明コーディネーター	佐々木真喜子 (株式会社フクター)
音響コーディネーター	相馬千秋 (有限会社サウンドワイズ)

アートディレクション+デザイン	アジール (佐藤直樹+中澤耕平+谷藤千+徳友明子+菊地隆隆)
ウェブサイトを	演田真一 + 田中裕也 (株式会社ソノノ)
パブリシティ	平子 望月章宏
海外広報・翻訳	アムドゥース・ウィリアム
物販	渡辺淳
編集・執筆	鈴木理咲子
編集・執筆 ( ( TOKYO/SCENE))	影山裕樹

Program Director: Chiaki Soma  
Administrative Director: Naoko Hasegawa  
Assistant Administrative Director: Hirotoomo Kojima  
Production Manager: Tomoya Takeda  
Production Co-ordinators: Chika Kawakami, Orii Kiyuna, Aya Komori, Yuka Sugiyama, Fumiko Toda, Sayuri Fujii  
Media Strategy: Kanako Matsumoto  
Program Research: Ulrike Krauthorn  
Asia Projects Co-ordinators: Hitomi Oyama, Seunghyo Lee  
Ticket Administration: Rie Kagahara, Fumiko Shihoda  
Ticket Office: Yumiko Saeki, Kumiko Sato  
Administrators: Madoka Ashihara, Hisayoshi Isshiki  
Accounting: Kamiko Tsutsumi  
Assistant Production Co-ordinators: Chika Onozaka, Shiori Sunagawa, Saki Tanaka, Suzuko Tanohri, Ai Nakayama  
Assistant Media Strategy: Nanana Kanamori  
Assistant Asia Project Co-ordinator: Makiko Yoshioka  
Trainees: Mei Ito, Hiroki Kobayashi, Toshiya Tatei, Fumi Funahashi, Kaori Yoshizaki  
Technical Director: Eiji Torikawa  
Assistant Technical Director: Chizuru Kono  
Lighting Co-ordination: Makiko Sasaki (Factor Co., Ltd.)  
Sound Co-ordination: Akira Aikawa (Sound Weeds Inc.)  
Art Direction+Design: Asyil (Naoki Sato + Kouhei Nakazawa + Yoko Tani + Akiko Tokunaga + Masataka Kikuchi)  
Website: Shinichi Hamada + Yoko Tanaka (Ito+Kawachi)  
Public Relations: Masako Taira, Akhиро Mochizuki  
Overseas Public Relations, Translation: William Andrews  
Merchandise: Jun Watanabe  
Editor/Writer: Rieko Suzuki  
Editor/Writer (TOKYO/SCENE): Yuki Kagayama

お問合せ先  
発行：フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局  
〒170-0001  
東京都豊島区西尾崎4-9-1 にしすがも創造舎 NPO法人アートネットワーク・ジャパン内  
TEL: 03-5961-5202  
HP: http://festival-tokyo.jp/